

商店街をもっと見る。もっと知る。

京都商店街新聞

2023.11 | Vol.7

KYOTO SHOPPING DISTRICT PRESS

発行 | 京都府商店街振興組合連合会 〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷絆町78 (京都経済センター3階) TEL (075)-342-0301 FAX (075)-342-0302 URL https://syouren.or.jp

CONTENTS

インタビュー：伏見大手筋商店街振興組合 | 秋のイベント：男山中央センター商店街 | 商店街のSDGs 知恵袋：シン・オープンマーケット | 京都市商店街等キャッシュレス・DX チャレンジ支援事業補助金の活用について | 商店街川柳 | and more...



地域に頼られる、商店街に。

お客様からも、店主からも、頼られる商店街を目指して取り組んでいること、大切にしていることは。

伏見大手筋商店街振興組合

あきの ゆうすけ
会長 浅野 雄祐 さん

伏見大手筋商店街振興組合(以下、「大手筋商店街」)の浅野雄祐会長に商店街で取り組まれている事業内容、そして周辺の商店街や地域との連携、最後に今後の商店街のビジョンについてお話をうかがいました。

大手筋商店街では、商店街のなかでのイベントといった内部のことは、行政や京商連に託して、外部との渉外的な仕事を行う会長職をつとめられるのが通例だそうです。浅野会長は、6年間大手筋商店街の理事長職をつとめられた後に、会長になられています。

お祭りで広がる地域の「和」

大手筋商店街で大事なものにお祭りがあります。御香宮神社の祭りにあわせて大手筋主催の花笠パレードは30年続いています。その花笠は各町内会で作りますが、青年部が作る様子を先輩方が見に来るんです。先輩たちが老若男女集まる土壌を作ってくれてきたことを感じる瞬間です。また、地域に新しく越してきた方々にも、花笠の作り方を教えています。今後は、外国の方も参加できる形にしたいですね。このような活動の情報発信は、SNS等の今どきの技術との融合も図っていきたくです。

周辺の商店街さんとはとても仲がいいです。こちらでは、7月に夏の夜市という一日限りのお祭りがあり、近隣の商店街と協力しながらやっています。お祭りは、昔と変わらず賑わっています。大手筋商店街には、昔から大人気の子ども向けの手作りゲームがあるんです。普段、商店街をご利用いただく方々への日頃のご愛顧に

に対する感謝の気持ちで実施しています。ご家族皆さんで、子ども達や孫達とゲームで楽しいひと時を味わってほしいという意味合いなんです。こうしたイベントには、青年部のメンバーは全員出るし、親父の世代も喜んで手伝ってくれます。あと大手筋商店街に緑のある銀行の若手さんとか、大勢のお手伝いに来てくれます。これも、先輩方の背中を見てきているから、続けなアカンと思ひ、継続は力なりだと実感しています。

また、新しいイベントとして、大阪の天水連さんの協力を得て、今年は、阿波踊りをしました。最後には、お客さんが全員踊りだすほど喜んでくれたので、続けたいと思っています。

地域から頼られる大手筋商店街の未来

商店街は、人々が集う非常に大事な場所と捉えています。日常的には電光掲示板などを設置して、あらゆる行政からの情報が一目で見られる情報発信の場になるのがいいかと思ひます。今、京都市の協力を得て、アーケード上にソーラー発電の設置を検討しています。自家発電能力を高め、緊急時には、ここに避難したら大丈夫と思われる商店街になっていきたいです。行政を含めた多くの組織と協力しあい、皆様に頼ってもらえる商店街となるのが理想です。

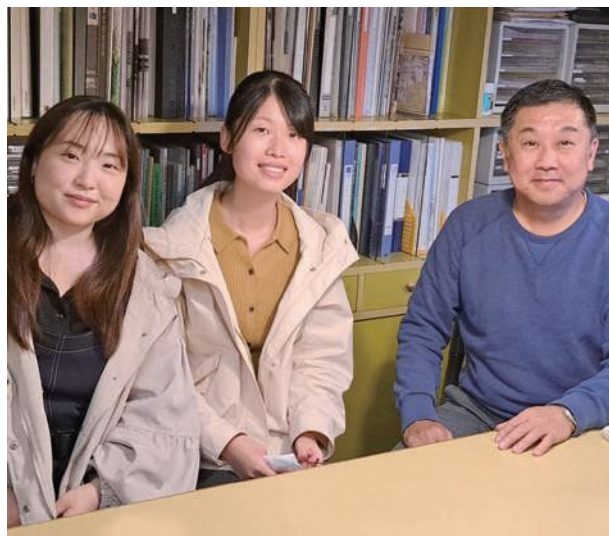
また、個店が頑張らないかと思ひます。個店の魅力が、商店街の魅力だと思えるからです。うちの商店街はローカルなので、まずは近隣のお客様が大事なんです。プラス観光の方が来て、ローカル感がいいなと思ってもらえたら最高なんじゃないかな。頑張る個店に加え

てチェーン店も利用してくれたらお互いのいいところが交わり、良い雰囲気のお店街になると思ひます。

インタビューを通して印象に残ったこと

「一番大事なのはお客様だけど、その次に大事なのは、うちのメンバーなんです。」という言葉が印象的でした。インタビューを通じて、浅野会長の大手筋愛を強く感じる事ができました。

(文責)平安女学院大学 国際観光学部 井成和実 山内伊紀



●伏見大手筋商店街振興組合 | 〒612-8055 京都市伏見区伯耆町10 ☎075・601・0558 | FAX:075・601・4331 URL: http://otesuji.jp

マップ出所: 京都商店連盟 / 京都府商店街振興組合連合会 HP 商店街マップより URL: https://syouren.or.jp/Menu/P07_04.pdf



男山中央センター商店街 くらもとりょう 会長 庫本 亮さん



自分達が楽しむ、そこから繋がりを広げていく。

男山中央センター商店街

八幡市男山団地内の男山中央センター商店街は、男山地域の中央にあり、バス停も近く、利便性のよい場所にあります。昭和50年代、団地の建設に伴って設けられました。去る10月21日に開催された「男山ハロウィンマルシェ&仮装コンテスト」では、こぞって仮装を楽しむ人々が集まり、大賑わいのなか、商店街のイベントを中心になって企画実行されている、男山中央センター商店街の庫本会長に、イベントの運営や商店街活動についてお聞きしました。

「男山ハロウィンマルシェ」とは。

今年で二度目の開催です。京都市内のように、多種多様なイベントがあり、コンセプトがある程度しっかりしていないと集客ができない、という事情と異なり、イベントの告知をすれば人が集まってくる、といったメリットがあります。ハロウィンイベントは、他の場所での成功例があり、それを真似た形にはなりませんが、八幡市から補助金が出るなど、商店街のイベントとしても比較の実行しやすいと感じています。



庫本会長は、マリリン・モンロー。スタッフさんは、アダムスファミリーに仮装中。

去年も盛況でしたが、音楽の演奏を聞いたり、仮装した人々が集まって会場内を歩いたり、食べたりするだけのイベントでした。今回は企画会議の段階で、もっと皆が参加できるようにしたい、仮装コンテストを計画したり、他にも子育て世代が多いので子どもが遊べ

る「お菓子エリア」を設けるなど、より参加型のイベントとして実施しました。出店に関しては、地域内で候補を募ることが多いですが、今回はSNSで募集したため、地域内に限らず遠方からプロのキッチンカーの応募もありました。

イベントの運営・宣伝について。

今回、男山地域の店主と連携し「おとこやま盛りあげ隊」という実行委員会を立ち上げました。もともと、私を中心に何人かで執り行っていたのですが、「楽しそうだから、一緒にやりたい!」と、店主以外の方々も参加していただけることになり、すごく心強いです。店主が中心になっている組織なので、繋がりが増えていくことで、個々の店の売り上げが増えることもありますが、それよりも肝にあるのは、自分達が楽しいことをしたい、という事です。

イベントの宣伝には『おとこやま盛りあげ隊』を中心に、口コミの連鎖で情報をひろげ、イベントに対する反応はアンケートをとって調べるのではなく、若い人がSNSで拡散してくれます。実際に、今回は去年よりも人が集まっていると思ひます。仮装は大人から子供まで楽しめるので、このハロウィンイベントはこれからも続いていくと思ひます。商店街としては、今春に「スプリングカーニバル」を催しましたが、ハロウィン規模の大きなイベントは予算の関係で、基本的には年に一度の開催です。

「おとこやま盛りあげ隊」の取り組み。

今後、この団体を中心に活動することで、今迄はイベントの場所がこの商店街に限られていたのが、地域内の他の場所も視野に入れることができ、新たなイベントの可能性が広がっていくと感じています。ただ、商店街単独の催しであれば、商店街の



予算で賄えるところを、「おとこやま盛りあげ隊」としてやっていくとなると、イベントのコンセプトや、原資をどうするかということも今後の課題です。

男山中央センター商店街が目指していること。

今、進めている商店街のプロジェクトとして府民協働の「未来プロジェクト(学生×地域つながる未来プロジェクト)」があります。地域の盛り上げや活性化に興味がある、大学生グループ(SSH「Shopping Street Hack」)の7名が、スマホ教室、花の植え替え、などを一緒に手伝ってくれています。他にもさまざまなアイデアを出し合いながら、商店街がよりよくなる方法を考えています。

また、「優しい商店街を目指す」というテーマがこの商店街にはありますが、これには外国からの研修生が多く、多文化・多様性をもつ地域性が、背景にあります。今回のハロウィンイベントにも、フィリピンの方が出店されたり、多様性ということであれば、LGBTQに関する理解を深めてもらえるよう、当事者の方のブースや、就労支援の方も出店されるなど、いろんな立場の人が一緒に楽しめるようなイベントにしていきたいと考えています。まずは、自分達が楽しみながら、商店街の可能性を広げていきたいです。

『おとこやま盛りあげ隊』の立ち上げを機に、男山中央センター商店街、男山地域が今後どのような展開を見せていくのか楽しみます。

●男山中央センター商店街 | 〒614-8373 京都府八幡市男山八望3-1 | Instagram: @otokoyama_ccs

商店街のSDGs 知恵袋 “環境フレンドリー”で思いを形に

取材・文／藤田 直己



京都シン・オープンマーケット実行委員会 代表
京都大学大学院地球環境学舎 修士課程 2年
たかしま きょういちろう
高島 恭一郎さん



1. 京都市役所前広場で開催された、シン・オープンマーケット。2. 広報チラシのイラストは御所南小学校 3 年生の皆さんが作成。3,4. シン・オープンマーケットの様子。

9月16日(土)に開催された、「環境にやさしい・地産地消」がテーマのシン・オープンマーケット。

活動の代表を務める京都大学大学院 地球環境学舎 修士課程 2年の高島さんに、活動内容や商店街との関わりについてお聞きしました。

活動を始めた経緯は何ですか。

私は現在社会人学生で、その仕事の中で郊外の農村の疲弊と過疎化を目の当たりにしたのがきっかけで、農村活性化や地方創生を学ぶため、休職して京都大学大学院に進学しました。大学院生になり、下宿先の関係で御池通を通る機会が増えたことで、御池通に興味を持ちました。土日にあまり人が通らないという問題を感じ、御池通にもっと人が来てほしいという思いが強くなりました。そこで、学生が地域の課題解決に取り組む「The Future of KYOTO AWARD」でその思いを伝え、Rethink 賞をいただきました。

しかし、御池通ではまちづくり団体が存在せず、実現のために必要な地元の同意を得るのが難しい状況でした。そこで、御池通近くの商店街へアプローチを行いました。

新京極商店街の西澤さんや寺町専門店会商店街の藤野さん、ゼスト御池会の洞本さんなどからバックアップをいただき、その思いの実現に向け動き出しました。まずは、イベントの開催を京都市役所前で考え、勉強中である農村活性化や地方創生も交えた「シン・オープンマーケット」を考案し、活動に至ります。

シン・オープンマーケットとは。

“環境フレンドリー”をベースに、京都地場の無農薬・減農薬野菜や規格外野菜、リサイクル・アップサイクル品などの販売などを行う、環境問題に特化した“新しい”オープンマーケットになっています。近隣する御所南小学校とも連携し、「京都のすてき大発見!」という写真展も同時に開催しました。また、電気を使用する出展者向けに、電気の供給は水素自動車からも行えるように整備しました。

環境問題に特化しつつ、地域との連携で御池通および周辺商店街の活性化、環境問題の意識向上に繋げる、全く新しい“シン・オープンマーケット”という形にしています。

商店街で「環境にやさしい・地産地消」を進めていくには。

フードロス対策、サーキュラーエコノミーの推進が重要であると考えています。例えば、今後オープンマーケットでは商店街の割引クーポンを作成することで商店街での買い物促進も図ったり、売れ残った商品はレストランやリサイクルショップ、子ども食堂などに有効活用してもらえような仕組みを作ったりすることを検討しています。このように各事業者で連携して、使わないものを必要な所に受け渡せる仕組みを作り、ロスを減らしていくことはとても大事だと考えています。

また、商店街で環境活動を進めていくには、人手不足の改善も重要であると考えています。土日などに何かイベントで通常業務ができないという時でも他の人が店番をしてくれるなど、人手

を確保できる仕組みができれば時間的余裕ができ、活動をより進められるのではないかと考えています。

今後の取り組みについて。

第1回シン・オープンマーケットでは、事業者様から環境フレンドリーを“直接”お客様に伝えていくことや、事業者同士のつながりを構築していくことができたことと好評をいただきました。しかし、事前広報が遅くなってしまった点や、避暑対策が十分でなかった点、市役所前に人が集まるきっかけをもっと作る必要があった点などの問題もありました。第2回は、12月9日(土)に同じ京都市役所前での開催を予定しています。次回は早めの宣伝や集客対策などを十分に行っていきたくです。

現在修士2年生のため翌年3月に卒業予定となります。学生ではなくても、今後もこれまで得た繋がりを大事に、引き続き京都での活動を進めて行きたいと考えています。

信念に向かって果敢に取り組む姿に心を打たれました。このような活動と活動、人と人の繋がりが、ゆくゆくは大きな目標実現に繋がっていくのではないのでしょうか。

● 京都大学大学院 地球環境学舎 環境マーケティング論分野 | 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 | ☎ 080-6597-4615 | E-mail: Takashima.kyoichiro.76s@st.kyoto-u.ac.jp | URL: https://www.eeso.ges.kyoto-u.ac.jp/emm/

2024年1月から電子取引の「データ保存義務化」も始まります！

京都市商店街等キャッシュレス・DXチャレンジ支援事業補助金の活用を！

取組の一例と各取組の補助率・補助上限額

※令和6年2月29日までに実施する取組が補助対象となります。

① 専門家による研修	② 事業のデジタル化・オンライン化	③ キャッシュレス・Wi-Fi 整備
キャッシュレス決済・デジタル化導入セミナー 	顧客へのプッシュ型情報発信ツール活用 	加盟店へのキャッシュレス決済端末の導入
会員間の情報共有ツールデジタル化講座 	お買い物デジタルスタンプラリー 	商店街への無料 Wi-Fi 設備の導入
デジタルサイネージ設置 	< 補助率 > 1 / 2 < 補助上限額 > 100万円	

< 補助率 > 2 / 3
< 補助上限額 > 30万円

※研修(①)とその他の取組(②③)、それぞれ1回ずつ申請可(同時可)なお、受けられる補助金額は最大で100万円です。

キャッシュレス化・デジタル化について、何から始めればいいのかわからない方については、まずはこちらをご覧ください。

商店街・店主のみなさまへ

掲載情報、編集メンバー、川柳、広告大募集中です。

「これってどういうこと?」、「うちの自慢を記事に」、「後継者を探したい」、「編集に参加してみたい」などなど……。商店街での取り組みやお悩み、情報を共有し、自分ごととして考える。そんな身近な商店街新聞をめざすために、京都の商店街・店主のみなさまからの情報を随時募集しています。ぜひお気軽にお問い合わせください!

お問い合わせ先
 ■ 京都商店街新聞 編集部宛
 E-mail / kyoto.shotengai.editing@gmail.com
 ■ 商店街川柳 応募フォーム
 URL / https://forms.gle/YJ9oGc4YArgPpgVX6

編集部宛フォームはこちら▼



商店街川柳

商店街まつり反省会が明日への活力
かもがわかるたさん

会長も若衆の頃汗をかき
元イケオジさん

子ども駆けママが追いかけてじじ笑顔
好好爺さん

えやみ去りまつり賑わう 錦秋の商店街
もてなすくん大好き人間さん

アークード心身共に傘となる
雄威亭やすさん

日常のひとこまを
川柳にしてみませんか?
商店街川柳の応募フォームはこちら▼

